

石ツミ遺跡第1次発掘調査報告書



2013

姫路市教育委員会

1. 調査に至る経緯・事業の経過

姫路市西庄字石ツミ甲 365 番 1 他において長屋住宅 2 棟の建設が計画され、工事中に立会を実施したところ、遺跡が発見された。このため石ツミ遺跡と命名し本発掘調査（調査番号 20120450）を実施する運びとなった。現地調査期間は平成 25 年（2013 年）3 月 19 日～3 月 23 日で、調査面積は 58 m² である。

2. 遺跡の周辺環境

石ツミ遺跡は姫路平野南部を流れる水尾川の氾濫原に位置する。周辺には町田遺跡（1）、八反長遺跡（2）、堂田遺跡（3）などが所在する。町田遺跡は山陽新幹線の建設工事に伴い発掘調査がおこなわれ、湧水地とされる沼状構造などを見つかり、弥生前期の土器が出土している。八反長遺跡では 1980 年以降、水尾川改修工事に伴う発掘調査が実施され、弥生前期の土器のほか木製品が多数出土している。堂田遺跡は八反長遺跡とともに発掘調査され、砂礫層下の黒色ビート層から中・西播磨地方では数少ない繩文晚期前半の土器が出土している。

3. 発掘調査の成果

調査区の層序は、地表から約 20cm の耕土、約 10cm のにぶい黄橙色シルト（マンガン集積）が存在し、標高 10.4m で黄色粘質土（基盤層）に至った。本来の遺構面は黄色粘質土の上面にあたるが、調査時点では既に工事で削平を受けており、この面から約 20 ～ 30cm 下がった状態で遺構を検出した。調査の結果、溝 1 条（SD1）、土坑墓 2 基（ST1・2）、土坑 3 基（SK1～3）のほかビットを数基検出した。

SD1 は調査区の中央で検出した。幅約 5.0m、深さ約 25cm を測り、調査区内を北西から南東に走行する。埋土は黒褐色粘質土（細砂混じる）で、下層に砂質土が堆積していた。遺物は口縁端部を上へ拡張し浮文を貼り付けた器台、凹線文を施した直口壺、タタキ甕などが黒褐色粘質土から出土しており、弥生中期後半～後期のものとみられる。

ST1・2 は調査区の南半で検出した。ともに長方形を呈し、棺底には小口穴と長側板の痕跡を残していた。ST1 は長軸 1.8m、短軸 0.8m、深さ 13cm、ST2 は長軸 0.7m、短軸 0.35m、深さ 7 cm を測る。ST1・2 からは弥生土器細片が出土したが詳しい時期は不明である。

SK2 からは甕（1）と壺（2）が出土した。1 は逆 L 字状口縁をもち、口縁直下に 4 条の箒描沈線文を施している。2 は卵形の体部を有す。このほか、端部に刻目を入れた如意状口縁をもち、胴部上半に箒描沈線文を施した甕も共存している。いずれも弥生前期末～中期初頭のものとみられる。

SK3 からは弥生中期の甕の底部が出土している。

以上のとおり、石ツミ遺跡では弥生前期～後期の遺物が出土し、各時期の遺構が存在することが明らかになった。周辺の町田遺跡、八反長遺跡、堂田遺跡では、これほど明確な遺構は確認されておらず、水尾川下流域の低湿地帯における今回の調査成果の意義は大きいといえよう。

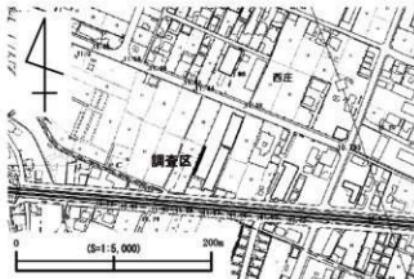


図 1 調査区位置図 (1/5,000)

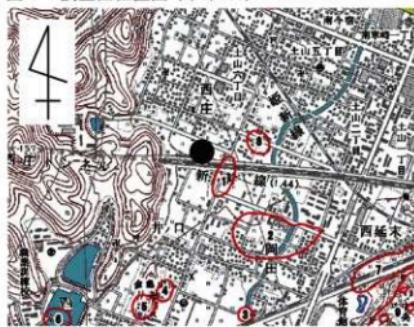


図 2 遺跡の周辺環境 (1/25,000)

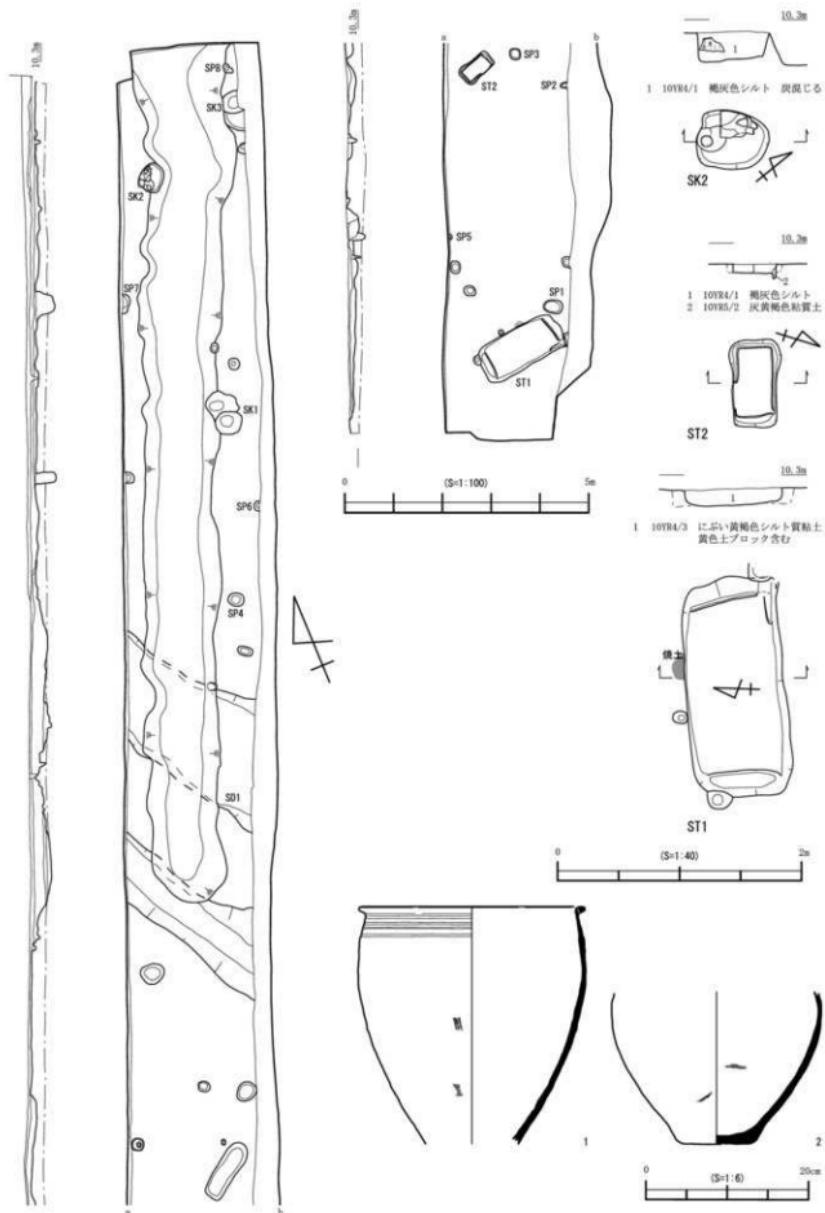
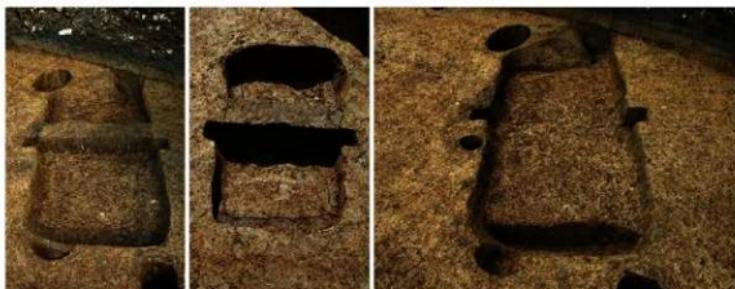


図3 遺構全体図 (1/100) ST1・2、SK2 平・断面図 (1/40) SK2 出土遺物 (1/6)



ST1木棺痕跡検出(南西から) ST2木棺痕跡検出(北東から) ST1(南西から)



ST2(北東から)

SK2弥生土器出土状況(東から)

報告書抄録

ふりがな	いしづみいせきだいいらちじはつくつちょうさほうこくしょ					
書名	石ツミ遺跡第1次発掘調査報告書					
副書名						
巻次						
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告					
シリーズ番号	第14集					
編著者名	南 憲和					
編著機関	姫路市埋蔵文化財センター					
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1 TEL (079) 252-3950					
発行年月日	2014年3月31日					
所収遺跡名						
	所在地		コード	北緯	東経	調査期間
	市町村	遺跡番号				調査面積
いしづみいせき 石ツミ遺跡	ひょうごけんひめじしゆう 姫路市西庄字西庄 あざらしつかこう 字石ツミ甲365番1他	28201	020946	34度 49分 46秒	134度 39分 51秒	2013.3.19 ～ 2013.3.23
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
石ツミ遺跡	集落跡	弥生時代前～後期	土坑墓、土坑、溝	弥生土器壺・甕		

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第14集

石ツミ遺跡第1次発掘調査報告書

編集 姫路市埋蔵文化財センター

〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1

発行 姫路市教育委員会

〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地

発行日 平成26年(2014年)3月31日

印刷 松尾印刷株式会社

1 本書は、姫路市西庄字石ツミ甲365番1他で実施した石ツミ遺跡第1次発掘調査の報告書である。

2 調査は、事業者からの委託を受け、姫路市教育委員会が実施した。

3 本発掘調査は、姫路市教育委員会埋蔵文化財センターの実施が担当した。

4 本書の執筆・編集は南憲和がおこなった。

5 調査に関する写真・図面等の調査記録、出土品は姫路市埋蔵文化財センターが保管している。広く活用されたい。

6 標高値は、東京湾平均海準(T.P.)を基準としている。方位は座標北を示す。

7 土層図の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財团法人日本色彩研究所監修『新色見』色标准に準拠した。

8 遺構は、原則的にアルファベットと数字を組み合わせた略号で表記した。略号はSD-構、SK-土坑、SP-ピット、ST-土坑墓をあらわす。